

# PHILIPPINE SUMMER CAMP

2014 8/20~9/12

Leyte, Matag-ob



Reported by FIWC-Kyushu

# 目次

- 1.はじめに
- 2.FIWC とは
- 3.重要人物紹介
- 4.事前, 下見スケジュール
- 5.2015 春ワーク内容
6. ワーク地決定の経緯
7. その他調査した村
- 8.evaluation
- 9.カンソソ cash for work について



- 10.生活状況
- 11.係報告
  - ・ 会計
  - ・ 保健
  - ・ KP
  - ・ イベント
- 12.他己紹介
- 13.感想

# 1. はじめに

未来とは？

今この瞬間も、たった1秒前のあなたの未来です。

あなたはどんな未来を描いていますか？

未来を変えたい！明るい未来をつくりたい！

そんな言葉をよく耳にします。

未来を変える。それは、今を変えることである。

考えること。そして動き出すこと。

これが私たちにできること。私たちが未来のためにできること。

こんな私たちにだって、できることは必ずある。

今年の下見キャンプのテーマ、“未来”。

そしてキャンパーの思いを「持続性」「緊急性」「子供の視点」という3つの柱にこめた。  
村人たちにより幸せを感じてほしい。未来を担う子供たちのキラキラした笑顔を守りたい。

フィリピンに帰ると、たくさんの仲間や家族が待っている。

彼らの幸せそうな表情を見ていると、自然と笑顔があふれてくる。

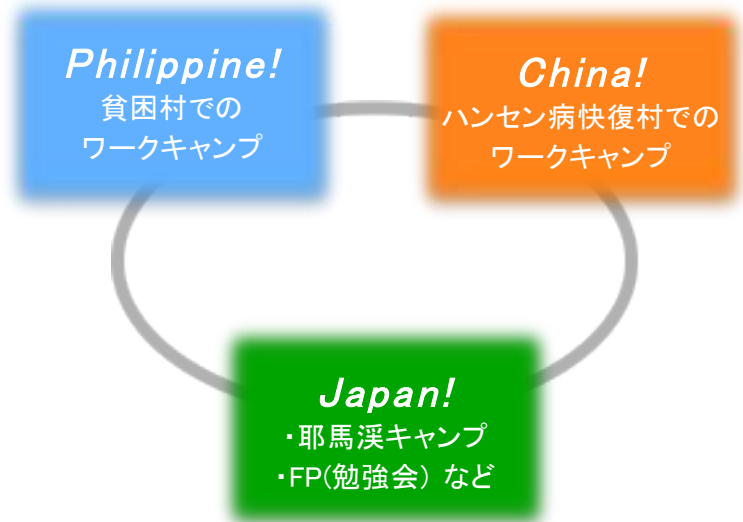


私たちと共に**未来**について考えてみませんか？ **幸せ**を感じてみませんか？

2014年度フィリピンキャンプリーダー 江原文香

## 2. FIWC とは

# Friends International Work Camp



FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

### < 国際活動 >

#### ○中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

#### ○フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

### < 国内活動 >

#### ○耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

#### ○FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおと一ぷ」で行っている勉強会&交流会。

#### ○その他

学祭、まんば(Monthly Party)、総会、国内合宿 など

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！

### 3. 重要人物紹介

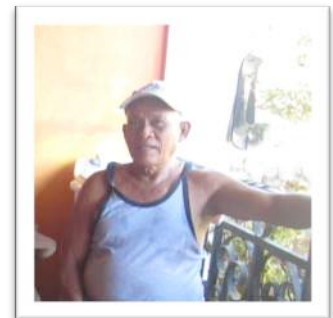


○ロクロクさん（現地エンジニア）

1999年からFIWC 関東のキャンプに参加して下さっている現地のエンジニア。FIWC 九州発足後は九州のプロジェクトのみに関わらずキャンプを様々な面から支えて下さっています。今回のキャンプでもsurveyを中心にほぼ毎日協力して下さいました。FIWCのメンバーを心から愛してくれる、私たちのお父さんの存在です。

○タタイ・ガリオ（ブノイ村長）

次回キャンプ地のブノイ村の村長さん。surveyやミーティング中もいつも微笑んでいます。キャンプ中には家の中に招待してもらったり、陽気にお酒を振る舞ってもらったりしました。奥さん思いの優しいおじさんです。



○マミィ・セディン（カンソソ元村長）

前回のキャンプ地であるカンソソ村の元村長であり、現在の村長のお母さん。私たちの滞在中不在だった村長の代わりに私たちのお世話やミーティングを行ってくれました。マミィ・セディンの作るご飯はとっても美味しく優しい母の味。キャンパーからも大人気です。

○ダディ・ドドン

2009年のワーク時にお世話になり、それ以降も私たちの活動に協力して下さいる元マタグオブ副市長。春の本キャンプの際は、資材の準備など協力して下さいました。今回は私たちの滞在中に家に招待して頂き、ご飯をごちそうになりました。



○NorWeLeDePAI

(North Western Leyte Development Parent's Association Inc.)

FIWC九州と2004年から連携体制をとっている現地NGO団体。この団体は、レイテ島北西部の村々で子供たちと両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、World Visionから資金援助を受けている。毎回、パスポート等の管理をお願いしているが、オフィスの安全上の問題により、前回の本キャンプ同様訪問のみを行いました。

## 5. 事前・下見スケジュール

### MTG スケジュール

- 6/11(水) 第1回 MTG@あすみん  
6/16(月) 第2回 MTG@あすみん  
6/23(月) 第3回 MTG@あすみん  
6/30(月) 第4回 MTG@あすみん  
7/7(月) 第5回 MTG@あすみん  
7/14(月) 第6回 MTG@あすみん  
8/9(土) 第7回 MTG@ごゆいの家  
8/9(土),10(日) 国内合宿@まさえさんの家  
8/20~9/12 下見キャンプ  
9/15(月) 事後 MTG@あすみん  
10/25(土) キャンプ報告会@びおとーぷ



### キャンプ日程

- 8/20(水) 11:05 福岡空港発 →釜山空港→ 25:25 セブ空港着  
セブ島で仮眠(@シランガンホテル)  
8/21(木)★5:30 セブ港発→8:00 オルモック港着(レイテ島)  
ロクロクさん宅に宿泊  
8/22(金) 前回ワーク地カンソソ村滞在開始 表敬訪問\*  
8/23(土)★ノルウェルで MTG  
8/24(日) ダディドドン、マミーサニー宅訪問  
前回ワーク地の evaluation  
カンソソ村の役員と MTG  
8/25(月)★ナオライアン村・サンマルセリーノ村・ブノイ村 survey  
ダディドドン宅で夕食  
8/26(火)★表敬訪問 ブラク村 survey  
8/27(水)★サンセバスチャン村・サンタローサ村 survey  
8/28(木)★マンサハオン村・リバーサイド村 survey  
8/29(金) サンセバスチャン村でチェーンソープロジェクトの様子を見る  
8/30(土) サンタローサ村のフェスタに招待される  
8/31(日) 休息日



- 9/1(月) evaluation(のり、りりこ)
- 9/2(火)★ イメルダ村 survey
- 9/3(水)★ リバーサイド村・ブノイ村 resurvey  
キャンプ地決定 MTG →ブノイ村に決定！！
- 9/4(木)★ ブノイ村へワーク地決定の報告  
カンソソ村ミニ farewell party ディスコ
- 9/5(金)★ ブノイ村滞在開始(6泊7日)
- 9/6(土) ミニ Japanese Festival
- 9/7(日)★ ブノイ村で GAM\*
- 9/8(月)★ ムニシパルで MTG  
パロンボンの資材屋で資材の確認(ごゆい)  
ブノイ村役員と MTG
- 9/9(火)★ タバンゴ市散策  
リバーサイド村への謝罪  
ブノイ村役員と MTG
- 9/10(水)★ブノイ村でミニ farewell party
- 9/11(木) ブノイ村出発 オルモック→セブ島へ移動 SM で買い物
- 9/12(金) 1:35 セブ空港発 →仁川空港→ 9:20 福岡空港着  
無事帰国！！



★印はロクロクさんが協力してくれた日

\*表敬訪問…マタグオブ市の市役所を訪問し、市長や役員に挨拶をしたり、警察署にパスポートのコピーを渡したりする。

\*GAM(General Assembly Meeting)…通称ジェネアセ。村人を集めて FIWC、ワークについて説明し、理解を得るための集会。



## 5. 2015年ワーク内容

### ○概要○

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市ブノイ村

内容：Improvement of water system（水道設備の改善）

期間：2月～3月のうち約3週間

参加者：現地エンジニア（ロクロクさん）、ブノイ村の村役員、村人、FIWCメンバー

[費用]

村	100,000P
市	150,000P
FIWC	110,000P
合計	360,000P

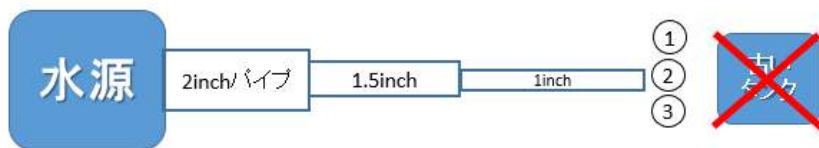
### ○詳細○

人口	698人	集落	4つ
台風の復興状況	50%回復 学校が全壊したがスイスの団体が支援		
主な問題点	水源は豊富だが水道設備の効率が悪く蛇口からの水圧が弱い。 100世帯以上の家庭が3つの公共の蛇口使用している。		
ワーク詳細	ワーク期間は約3週間 ・水道パイプを細いパイプから太いパイプに入れ替え、新しいタンクを作り水圧を強くする。 ・公共の蛇口を3つから6つに増やす。		
予算	村：10万P 市：15万P FIWC：11万P 合計：36万P		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 村は20年以上前からこの水道設備の問題に悩まされている。</li> <li>➤ 一度国が600万Pの予算で水道設備の改善をしようとしたが、財政困難により中止になった。</li> <li>➤ カラヒ、ワールドビジョン等の団体からの支援の予定はない。</li> <li>➤ ブノイはハイウェイ沿いの村で、土地が低いと雨降ると洪水になりやすい。</li> <li>➤ 4つの集落のうちproper(村の中心の集落)以外は他の水源を使用しているため村の60%ほどの人に利益がある。</li> </ul>		

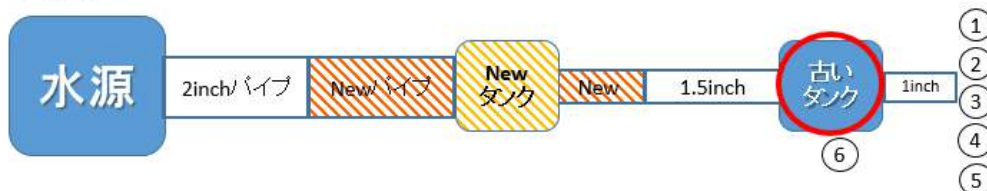


○ワーク内容○（水道パイプの交換、水道タンクの建設）

## BEFORE

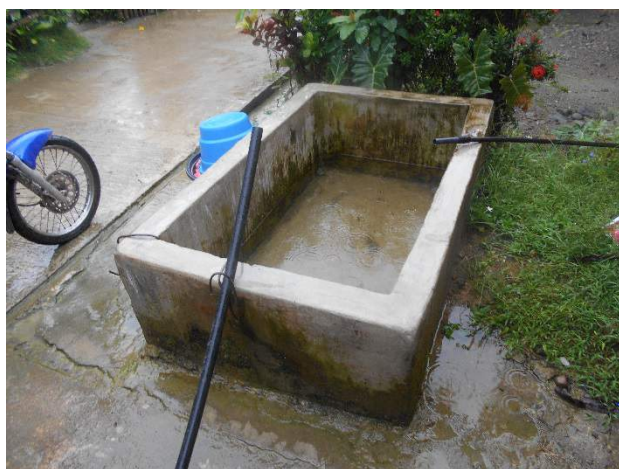


## AFTER



【図 1】

今回のワークの主な作業内容は図1のようになる。水源はサンマルセリーノにありそこからブノイの中心部までパイプをつないでいる。現在の弱い水圧を改善するために1.5inchの水道管を2.0inchに、1.0inchの水道管を1.5inchにそれぞれ交換する。そして途中で新しいタンクを建設し、ここで一度水を貯めることで水圧の向上を図る。また、もともとproper(村の中心部の集落)にタンクが建設されていたのだが現在はproperの水圧が弱すぎるためにタンクに水が貯まらず、タンクは未使用の状態となっている。水道管の交換と新しいタンクの建設終了後、水圧が強くなるのでパイプをproperにある古いタンクに繋ぎ、そこから6つの蛇口を設置する。



【写真 2】

写真2は現在の公共の蛇口の様子。この蛇口をおよそ40家庭が共同で使用している。

[予算の内訳]

● F I W C 九州

資材・ツール代	96,000 P
感謝料・予備費	14,000 P

\*資材ツール代 96000P にロクロクさんへの感謝料とワークの予備費 14000P を加えた 11000P が FIWC の予算となった

● 市

資材代	120,000 P
Food for work の米代	30,000 P

● 村

ボランティア昼食代	50,000 P
資材代	50,000 P

○ワークによる問題回避策○

Water system は今までの FIWC の経験上、最も問題を引き起こしやすいワークであるといえる。これを踏まえて、メンバー内であらかじめ予想される問題とその対策を練った。

問題点	対策
Water system は壊れやすく、メンテナンスが必要	あらかじめ村と話し合って毎年一定額のメンテナンス費を村の予算から出してもらうようお願いした。村は毎年 10,000P のメンテナンス費を用意すると約束。
水の分配が不平等になると問題になりやすい	村としては各家庭に水をひけるようにするのが最終目的だが、各家庭に水をひくと問題が起きやすいと判断し、FIWC のワークでは公共の水道蛇口を増やすところまでしか行わない。また、誤解を生まないよう、FIWC 滞在中、水を各家庭に引く作業は禁止。FIWC 帰国後、各家庭に水を引く場合は村が管理。公共の水道蛇口設置場所も平等を考慮して、村役員が決める。
パイプが通っている土地の保有者からのワークの許可が降りない場合がある	村長によると、すでに許可は得ていて、今まで何十年もこのような事例でもめたことはないため大丈夫とのこと。現地エンジニアとパイプが通っている場所を確認した結果、特に問題はなかった。

○Food for work について○

2013年11月にフィリピンを襲った台風 Haiyan。この影響で FIWC 九州は 2014 年度のキャンプで初めて cash for work という、ボランティアではなく、村人全員にお金を払いワークに参加してもらう形でワークキャンプを行った。しかし今年度のキャンプは、もとの FIWC の理念に基づいた給料なし、ボランティアのみで行おうという事になった。これは、2年続けて cash for work という形をとってしまうと今後も給料を払い続けなければいけなくなる可能性があるからと、1番はやはり FIWC の現地のボランティアのみで行うワークキャンプの理念や活動目的にそぐわないと考えたからである。しかしながら台風襲われ1年半以上経った今でもまだ被害から完全に回復できていないのが現状である。収入源を失ってしまった村人達にとって生活は依然として苦しく、ボランティアの余裕などない人が多い。そこで現地エンジニアの提案の元、Food for work を行うことに決定した。ただし FIWC には材料費以外の予算がないため、Food for work のための予算は市が負担。もともと市の予算の給料分の割合を Food for work の米代にあてる。Food for work の具体的な内容としては、ボランティアとして手伝ってくれた人に対して、毎日ワーク終了後に1世帯あたり 2kg の米を与えるというものである。こうする事でボランティアに参加してくれた人のその日の食べるものには困ることがなくなるだろう。



隣のサンマルセリーノ村の  
山奥にある水源

公共水道施設での洗濯



○ダタッグ集落の extra work について○

今回のブノイの water system の改善は proper (村の中心集落) のみの水道設備の改善となる。というのは、ブノイ村には4つの citio(集落)があり、うち proper を除く3つの citio はそれぞれ異なる水源を使用しているからである。私達は村をブノイに移った後にブノイ全域の水道設備の現状を把握するために各集落の各家庭を回り、聞き込み調査を行った。結果、現在水道設備に一番問題を抱えているのは proper であり、またブノイ全体の6割以上の人口が proper に住んでいるため利益の幅も広い事が分かった。その他の3つの集落のうち2つの集落は水道設備にほぼ問題がなく、各家庭に水道を引いている様子だったので FIWC がワークを行う必要性はないと判断。しかしながらダタッグという小さな集落だけ、水源からの水の量が不足しており、蛇口は集落に1つ、困った人々は安全ではない雨水を使用しているという状況が分かった。そこで、なんとかダタッグの集落にも援助できないかと考えた。現地エンジニアとキャンパーで話し合った結果、以下のように決定した。

- ・ワークの第一優先順位は proper の水道設備の改善である。
- ・ proper のワークが成功し水圧が十分に大きく水が余るような状況であり、予定期間にワークが終了し日程に余裕が出た場合のみ、追加のワークとしてダタッグのワークを行う。
- ・ダタッグのワーク内容は、新しく建設したタンクから 1 inch パイプをダタッグにある古いタンクに引く作業である。

このダタッグのワークを追加のワークとして行うと決めた理由は、利益の公平性への配慮が一番大きい。水源が異なる為直接的な問題解決は出来ないが、出来る限り村全体に平に利益が行き渡るようにしたいというのが私達の考えである。



## 6. ワーク地決定の経緯

今回の下見キャンプでは、マタグオブ市だけでなく他の市でも survey を行うかどうかを日本で事前に話し合った。その結果、他の市には”調査”という名目ではなくあくまで”様子を見に行く”ために訪問することに決まった。理由は以下の通りである。

- ・台風\*後初の survey であるためマタグオブ市に十分ニーズがあることが予想される
- ・他の市の台風被害からの復興状況も把握しておきたい
- ・一度他の市でワークをするとマタグオブ市に戻ることが難しい

\*台風…2013年11月に発生し、フィリピンに大きな被害を与えた超大型台風。

現地では、様子を見に行っただけのタバongo市は除いて、マタグオブ市の9つの村で survey を行った。その結果、リバーサイドとブノイの2つの村が候補地としてあがった。この2つの村に resurvey に行き、survey の時には聞けなかったワークの詳細を聞いたり、村役員にだけでなく村人にも直接話を聞いたりして情報を集めた。その情報をもとに話し合いを重ねた結果、2015年春のワーク地はブノイに決定した。リバーサイド、ブノイのワーク地決定の理由は以下の通りである。

### リバーサイド(道路の舗装とウォーターシステムの改善)

緊急性が高く、予算的にも期間的にもワークにちょうど良いかと思われた。しかし、

- ・村の端の限られた地域の人々にしか利益を生まない
- ・そのため現地のボランティアを集めるのが難しい
- ・もともと村の方でワークの案が出ており、FIWC が関わらなくても将来的に問題は改善されると予想される

などの理由から最終ワーク地には決まらなかった。

※リバーサイドについて詳しくは「その他の調査した村」を参照

### ブノイ(ウォーターシステムの改善)

FIWC 以外にも様々な NGO 団体が調査に訪れているが、ハイウェイ沿いでマーケットにも近いという立地から、山沿いの村を優先され、問題は20年間解決されないままだった。村側は非常に積極性があるため、たとえ小規模であっても FIWC がワークを行えばそれがきっかけとなり、今後ウォーターシステムの問題はより改善されることが見込まれる。これは今回のキャンプのテーマである「未来につながるキャンプ」に最も沿っているため、ブノイでワークをすることに決定した。

## 7. その他調査地

今回はマタグオブ市内のみで合計9の村を survey(調査)した。9の村はナオライアン、サンマルセリーノ、ブノイ (2015年ワーク内容参照)、ブラク、サンセバスチャン、サンタローサ、マンサハオン、リバーサイド、イメルダ。加えて今後のキャンプのためにも今まで行った事のない市の状況も確認しておきたいという事で、マタグオブ市の近くの市へ1日行き、簡易調査も行った。その詳細について以下示す。以下は調査した村を訪れた順に詳細を記載した。

### <ナオライアン>

人口	656人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 50%回復</li> <li>・ 学校、家、BRGY hall(村の公民館)、health center(保健所)が被害を受け、学校はすでに修繕済み</li> </ul>
主な問題点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 台風によって Box Culbert(道路の下の水路のトンネル)が半壊しており、トラックなどが通って衝撃を受けるとすぐに陥没する危険性がある</li> <li>2. 新しく建設した BRGBY hall、 health center が台風によって破壊された</li> </ol>
ワーク詳細	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Box Culbert の修繕 現在の Box Culbert は大きな石をトンネル状に積み、間をセメントで固める構造で、本体に大きくひびが入り、大きな石が転げ落ち水路を一部塞いでいる状態 一旦全て取り除き元と同じ構造の Box Culbert を作り直す</li> <li>2. BRGBY hall, Health center の建設 新しく BRGBY hall と Health center を建設する</li> </ol>
予算	村： 0P 市： 未定 FIWC： 10万P
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ カラヒはもらっていない</li> <li>➤ 山奥の村で、台風を機に多くの NGO からの援助を受けている</li> <li>➤ BRGBY hall, Health center は昔の古い建物が被害を受けず残っているため現在はそれを使用している</li> <li>➤ Box Culbert は村の主要道路にあるため、利益の範囲は村人全員</li> </ul>



壊れた BRGY hall



壊れた Box Culbert

[FIWC の判断]

1. Box Culbert はいつ道が陥没してもおかしくない危険な状況だったが、通常 Box Culbert を作るとなると全てコンクリートで固めるので 500,000~1,000,000 P の予算が必要で FIWC のできる規模を超える。村からは FIWC の予算の範囲でその修繕を依頼されたが、石を積んでセメントで固めるという構造だと強度が弱く、再び同じ問題が発生する可能性が高い。危険性が高く利益の範囲も広いワークだが FIWC のワークの規模を超えると判断した。
2. BRGY hall, Health center は村にとって必要不可欠な施設である。ナオライアンではこの2つが破壊されてしまったが、幸いにも昔の古い BRGY hall と Health center が残っており、そこが使用できているので、緊急性が低いと判断。

<サンマルセリーノ>

人口	1020 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60%が回復</li> <li>・ 全家屋のうち約 80%の家が被害を受け、同時に学校やココナツ、バナナ、カカオ等の収入源も大きな被害を受ける</li> <li>・ World vision が学校を再建した</li> </ul>
主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨がひどい時に水がひざの高さまで来て通行が困難</li> <li>・ 通学路になっているため雨がひどいときは親が迎えに行かなければならない</li> <li>・ 雨で道が侵食されて道幅が狭くなり、車が通行できるぎりぎりの細さになっているため危険</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BRGY road(村の主幹道路)の堤防建設</li> <li>・ ワーク期間は約 3 週間</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・500m の道の浸食が激しい側を水によって侵食されないようにコンクリートで固める</li> <li>・水の氾濫の原因となる水路内の土砂を運び出し、水路の両脇もコンクリートで固めることで水が氾濫しにくくする</li> </ul>
予算	村：0P 市：未定 FIWC：10万P
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 道のコンクリート舗装となると費用が高すぎて予算が足りないためコンクリートで両脇を固める作業だけとなる</li> <li>➤ 昔この道はカラヒによって石をひきつめかたくする作業がおこなわれている</li> <li>➤ 多くの NGO 団体が通る道なのでこの問題は目にとまりやすい</li> <li>➤ 村は現在行われている water system の改善に予算を使っているため、このワークに予算はおろせない</li> <li>➤ サンマルセリーノだけでなくサンビセンテ、ブラクの人も通行する道路のため利益の範囲は非常に広い</li> </ul>



侵食された道の片側

#### [FIWC の判断]

緊急性も利益の幅も大きいですが、他の団体が援助する可能性が高く、また後日洪水がひどい日に問題の道路を訪れてみると、隣の村ブノイの洪水の状況に比べると状況はそこまで深刻ではなかったため、FIWC が今援助する必要がある問題ではないと判断。

#### <ブラク>

人口	560 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 80%回復</li> <li>・ 学校は被害を受けておらず、多くの家が被害を受けた</li> <li>・ NGO とカラヒによって多くの援助が入った</li> </ul>



主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>BRGY road</b> が一部のみコンクリート舗装で残りの部分は表面を固める加工を行っているが、雨のたびに表面の土砂が流れ、大きな岩がむき出しになり滑りやすく危険になる</li> <li>• ハバル（バイク）がよくそこで滑って転倒している</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>BRGY road</b> のコンクリート舗装（約 50m 区間）</li> <li>• 岩がむき出しになり滑りやすい区域をコンクリート舗装する</li> </ul>
予算	村： 10 万 P 市： 未定 FIWC： 10 万 P
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 電気に問題があったが NGO 団体が改善済み</li> <li>➤ 水道設備の問題は <b>save the children</b> が整備済み</li> <li>➤ 山の上の村でカラヒ等の援助を受けやすい地域</li> <li>➤ 以前サンセバスチャンのワークを手伝ってくれた村人が多く FIWC に好印象</li> <li>➤ 村人同士の仲が良く、道に問題が起きた場合などは村人が協力して修理している</li> <li>➤ 村の主幹道路なので利益の幅は村人全員</li> </ul>



問題の道

#### [FIWC の判断]

コンクリート舗装は費用が高いため、FIWC の予算では短い区間のコンクリート舗装しかできない。すでにカラヒの援助が入っている道の一部を FIWC の予算を使ってコンクリート舗装することの意義があまり感じられなかった。さらに今後この道にカラヒが降りる可能性もある。また村人同士の仲が良く、問題がおきても自分たちだけでボランティアを集める事ができているので、FIWC のワークキャンプを行っても村に大きな変化はないだろうと推定される。山の上の村で他団体の援助が多く入っている。以上のことから FIWC 介入の必要性が小さいと判断。

＜サンセバスチャン＞

人口	1065 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 80%回復</li> <li>・ BRGY hall、Health center、家、ココナッツ等の収入源が被害を受ける</li> </ul>
主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風の影響で水源が汚染され、多くの村人が水を飲んでおなかの病気になった</li> <li>・ 水質検査で基準値を上回っていて危険だが、村人はその水を飲んでいる</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全の飲み水の確保</li> <li>・ ブラク（隣の村のきれいな水源）から水を引くためのパイプを 1.5km つなぐ</li> <li>・ タンクはもともとあるため作る必要なし</li> <li>・ ブラクから水を引くため定額ではあるが水道料が必要になる</li> <li>・ 公共の飲料用水専用蛇口を作り、メーターを設置する</li> </ul>
予算	村： 4 万 5 千 P 市： 未定 FIWC： 10 万 P
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 村の最大の問題点は Box Culbert だが、これは費用が高すぎるため FIWC には不可能と判断</li> <li>➤ 以前 FIWC が 2 回ワークをおこなっているため日本人への印象が良い</li> <li>➤ 村の 25%の村人は違う水源を使用しているため、利益の範囲は 75%</li> </ul>

[FIWC の判断]

水の安全性の確保は人の健康に関わる非常に大事な問題である。しかし現に水質が良くない水を使用している村はここ以外にも多く、ワーク後の水は水道料金が発生すること、FIWC が以前に 2 度もワークを行った事があること等を考えると今回のワーク地には適さないと判断。

＜サンタローサ＞

人口	1505 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 90%回復</li> <li>・ 学校が破壊されたがすでに修繕済み</li> </ul>

主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Water system の水源が乏しいため多くの人々が公共の水道蛇口へ水をくみにいって使用している</li> <li>• 小学校に水がないため小さい子供が休み時間の度に車の多いハイウェイを横切って水を汲みに行かなければならず大変危険</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水源から 500mほど離れた小学校にパイプを繋いで水を引く</li> <li>• 小学校には現在使われていないタンクがすでにあるためそのタンクに水源から水を引く</li> </ul>
予算	村：0 P 市：未定 FIWC：10万 P
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ カラヒで高校を建設中のためこのワークにまわす予算がない</li> <li>➢ Proper（村の中心部）の水源を使用するのは村の人口の約30%</li> <li>➢ ある NGO 団体が別の水源からパイプをひく案を提案しており、今より水が豊富になるかもしれない</li> <li>➢ 利益の幅は小学校の児童 200 人とその保護者</li> <li>➢ 現在水源の水圧は弱く、また学校よりも水源は標高が低い位置にあるため、水源から学校にパイプをつないでも水が学校まで届く確立は小さい</li> <li>➢ 水源自体に問題があるため Water system に関して手をつけるのは難しい</li> </ul>



水を汲みに行く小学生

#### [FIWC の判断]

実際小学生が水を汲みに行っている様子を目の当たりにし大変危険だと感じたが、現地エンジニアの視察の結果このワークが成功する確率はきわめて低いことが発覚した。緊急性が高く子供の視点にたっても改善したい問題だったが、確実に成功するワークを行いたいという気持ちが大きかった。他団体の援助により水源の問題に改善の兆しがあるので、水源が改善された上でワークを行う方が良いと判断。

<マンサハオン>

人口	920 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 70%回復</li> <li>・ 家屋、学校、米やココナッツ等収入源のおよそ 80%が被害</li> <li>・ ワールドビジョンや save the children 等の団体が支援</li> <li>・ 学校は、屋根の材料は支援を受けたがその他の部分の資材がないためまだ修繕が終わっていない</li> </ul>
主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスケットボールコートの土地が低く雨の度にバスケットボールコートが水浸しになり使えなくなる</li> <li>・ また水がひいた後もコートの水はけが悪いため、地面が乾かず滑りやすくなる</li> <li>・ 以前はコートのライトに繋ぐ電線があり、水がたまった時に子供がその電線によって感電するという事故があり、大変危険</li> <li>・ コートとステージは各村に設置され、村の集会やお祭り等にも使用される重要な場所なので使用できない状態が続くと困る</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスケットボールコートおよびステージの底上げ（約 60cm）</li> <li>・ バスケットボールコート、ステージ、バスケットのポールを全てコンクリートと石を使って 60cm ずつ底上げする</li> </ul>
予算	<p>村： 28 万 P 市： 10 万 P FIWC： 10 万 P</p> <p>合計： 48 万 P</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現在は祭りや集会の時は市が所有する大きなバスケットボールコートとステージを使用している</li> <li>➤ 市長が住んでいる村なので市からの予算が降りやすい</li> <li>➤ 現在村の最大の課題は water system だが規模が大きすぎるため、FIWC は関与できない</li> <li>➤ 利益の範囲は村人全員</li> </ul>



問題のバスケットコート

[FIWC の判断]

利益の幅は広く、村にとってのバスケットボールコートとステージの必要性の高さも感じられたが、緊急性があまり感じられなかった。現在ライトの電線は切つてあるため感電の危険性もない。また市のバスケットボールコートとステージを使用することもできている事から今すぐに改善する必要はないと判断。

<リバーサイド>

人口	866 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 80%回復</li> <li>・ 家は回復し、村の <b>Health center</b> は雨漏りをしている状態</li> </ul>
主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マラオという小さな集落が独立した小さな山の上であり、その道が細くてドロドロで滑りやすく、通行が危険</li> <li>・ 雨の日などは学校に行けなくなってしまう子供たちもいる</li> <li>・ マラオのうち半分の地域に水道が通っておらず一部の人は危険な井戸水を飲料水として使用している</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マラオの山道のコンクリート舗装および水道整備</li> <li>・ 幅 80cm、厚さ 2inc、長さ 400m のコンクリート道を作り、雨の日でも人とハバルが通れる道を作る</li> <li>・ スチルバーは使わず、細かい砂利とセメントで舗装</li> <li>・ 村が新しいタンクを作るのでそのタンクに水源からパイプを繋ぐ</li> <li>・ 水源からの距離は短くパイプの太さも細くていいので、費用も期間もそれほどかからない</li> <li>・ 道のコンクリート舗装、水道整備両方行って 3 週間でワークが終わると予想される</li> </ul>
予算	<p>村：10 万 P 市： 6 万 P FIWC： 6 万 P</p> <p>合計： 22 万 P</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ マラオに手足がない障害をかかえた男の子が住んでおり、小学校に通うために毎日父親がおんぶして登校していて大変危険</li> <li>➤ 道は車椅子が通れるように考慮して幅を 80cm に設定</li> <li>➤ リバーサイドは市の中心部に非常に近く裕福な家庭も多いため、NGO などから支援を受けにくい</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 村長が推し進めている計画の一部を <b>FIWC</b> が担うことになるが、<b>FIWC</b> が援助しなかった場合、資金不足でこのプロジェクトが完成しない可能性が高い</li> <li>➤ 利益の幅はマラオに住む約 200 人前後の住民</li> </ul>
--	--



マラオの泥道



マラオの水道設備

[FIWC の判断]

リバーサイドは最終候補地にまで残った村で、実際にマラオの集落を訪れた時に泥道の危険性を身をもって体験し、このワークを行いたいと思うメンバーも多かった。利益の幅は小さいが、**FIWC** にしか助けることのできない問題で、道を作ることで子供達が学校に行きやすくなるということ支援したいと思う理由だった。しかし、すでに村長主体でこのプロジェクトは始められているので、**FIWC** の援助なしでもワークは完成するのではないかという推量と、日本人にとっては大変危険な泥道だったが、この地で生まれ育った現地の人から見れば、そこまで危険性は高くないよう感じ、キャンプ地に選ぶまでには至らなかった。

<イメルダ>

人口	約 600 人
台風の復興状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 50%回復</li> <li>・ 家屋、学校、収入源が被害を受けた</li> <li>・ 村の一部の人間にしか支援がなかったため多くの村人は自腹で家屋を修復し、今でも修復が終わっていない家が多い</li> <li>・ 小学校の屋根がなく雨の日は授業ができない状況だが、World Vision が材料と Cash for work を提供し修復する予定</li> </ul>
主な問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村の Day care center(保育園)のフェンスが台風によって破壊さ</li> </ul>

	<p>れ、子供達がハイウェイに飛び出す危険性があるため危険</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Day care center はハイウェイのすぐ横にあり、遊び場から少し出ると道路なので小さい子が飛び出す危険性が高い</li> </ul>
ワーク詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Day care center のコンクリートフェンス作り</li> <li>• 竹のフェンスだとすぐ壊れてしまうため、コンクリートのフェンスを Day care center の周りに建設する</li> </ul>
予算	<p>村： 0P 市： 0P FIWC： 10万P</p> <p>合計： 10万P</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ハイウェイ沿いの村のため他団体の支援を受けにくい</li> <li>➤ 水道設備にも問題があるが、それは市が対応する予定</li> <li>➤ 利益の幅は Day care center にかよう 3～4 歳児の子供 18 人とその保護者</li> </ul>



屋根のない学校



道路沿いの Day care center

[FIWC の判断]

小さい子供にとって危険な状況だったが、Day care center に通う子供の数が 18 人と少ないこと、Day care center は基本親の付き添いがあるため多くの大人が子供を見張ることができる事などを考慮すると、FIWC が援助するほどの問題ではないと判断。

## 8. evaluation

○evaluation とは？

前回のワーク地を再訪し、前回行ったワークの状況と日本人との生活について、インタビューによって事後評価を行う。今回は前回のワーク地であるカンソソ村で行った。

○2014 年春ワーク

### 【概要】

- ・場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市カンソソ村
- ・内容：construction of concrete footbridge(歩行者用の橋の建設)
- ・期間：2014 年 2/24～3/15(15 日間)
- ・参加者：FIWC 九州(9 人)、村人、現地エンジニア

### 【ワーク詳細】

前回のワークでは、全長約 18m、幅約 1.2m の歩行者とバイクが通れるコンクリート製の橋を建設した。

#### ・問題点

村から市の中心に行くときに川を渡らなければならない。川の上には道があるが、雨が降ると道が水につかってしまい、大雨の際には通行困難となる。また橋の奥には学校があり、雨天時には子供たちの通行が危険となるため、授業を中断して帰宅することもある。

#### ・FIWC 九州が行ったワーク

①支柱作り → ②橋の土台&骨組み作り → ③川の側面強化 → ④通路をコンクリート化 → ⑤橋の手すり作り&色塗り





○ワーク後の状況

- ・雨で道が水につかかってしまっている時でも、濡れずに安全に通行できるようになった。
- ・橋の入り口付近のコンクリート舗装が帰国後に行われる予定だったが、行われていなかった。通行の際、特に問題にはなっていなかった。
- ・ワーク期間中は台風後で電気が復旧しておらず、溶接の電力が弱かったため手すりが壊れてしまったが、メンテナンスされていた。

○evaluation 結果

【1】FIWC のワークについて

1、橋を利用しましたか？

yes : 34 人      no : 0 人

2、橋が原因で不便が起こったことはありますか？

yes : 0 人      no : 34 人

3、FIWC 九州が帰国した後、橋のメンテナンスを行いましたか？

yes : 8 人      no : 7 人

前述の通り、橋の手すりの修理を行った。また、橋の下に土砂がたまっていたため、土砂の除去を行った。この土砂は橋を作ったことが原因ではなく、橋の横にあるコンクリート製の道の手前に雨季になると毎年たまるものであり、村が予算を組んで除去を行っているようだ。



(土砂を除去している様子)

4、cash for work のお金を何に使いましたか？

- ・食べ物(米など)の購入 : 26 人      ・家屋の修繕 : 1 人
- ・学校の授業料 : 1 人                  ・衣服の購入 : 1 人

【2】FIWC 九州の滞在について

1、FIWC 九州の滞在中を楽しんでくれましたか？

yes : 34 人      no : 0 人

2、FIWCメンバーの行動に苛立ったことはありますか？

yes : 0人      no : 34人

3、FIWCメンバーで行ったもので楽しかったものは何ですか？

- ・ワーク : 3人                      ・Japanese festival : 12人
- ・ホームステイ : 5人            ・フェアウェルパーティ : 8人
- ・全部 : 10人                      (※複数回答可)

4、ホームステイはどうでしたか？

good : 5人      so-so : 0人      bad : 0人

5、ホームステイ中料理を作るのは大変でしたか？

yes : 1人      no : 4人

6、台風の復興は進んでいますか？

well recovered : 11人      partly : 7人      not at all : 16人

電気が復旧し、家も修復され、私たちの目から見ると復興はだいぶ進んでいるように見えた。しかし、インタビューの際に収入源がなくなって困っていると答えた人が多かった。新しい仕事を見つけていても、収入が以前よりも減ったと答えた村人もいた。安定した十分な収入源の確保が、村人たちにとっては重要だと感じた。

～総括～

今回の滞在は雨季であったため、実際に道に水がたまっているときに私たちが建設した橋を村人やバイクが通る瞬間を見ることができたのは、感動がとても大きかった。メンテナンスも村が自ら予算を組んで行っており、これからも橋の状態を維持していけそう。また、前回初の試みで行った cash for work であったが、村人の多くは食費に使ったようであり、村人からは「生活の足しになって助かった」など感謝の声を聞くことができた。

FIWC 九州の滞在に関しては、楽しんでくれた村人が多かったようだ。しかし、自分たちの行動やホームステイの方法など改善しなければならないことがありそう。evaluation によって分かった反省点を次回以降のキャンプに生かしていきたいと思う。



## 9. カンソソ村の cash for work について

カンソソ村は前回のキャンプ地で、ワーク内容はフットブリッジの建設。昨年11月にフィリピンレイテ島を襲った台風のために村人たちは収入源を失い、本来なら例年通り村人たちのボランティアでやるはずであったが、今までのようにボランティアとしてワークに参加することが出来なかったため、FIWCが cash for work をすることを決めた。カンソソ村にはおよそ180世帯あり、そのうち村役員たちを抜いた約170世帯に三日間ずつ働いてもらうことにした。グループAからグループFまでに分けFIWCの滞在中にグループEまで終わり、グループFはFIWCが帰った後に市からの予算でワークを行うことが決まっていた。



しかし、今回の下見キャンプで市からの予算5万ペソがまだ下りておらず、グループFがワークをできていないことが判明した。村長や村役員が市の担当者と話し合い、私たちも何度か市と掛け合い、もらえることが決定したので私たちの滞在中にグループFがワークを行った。今回スケジュールの関係でFIWCがワークを一緒にすることはできなかった。ワーク内容は小学校の屋根の修理と川の掃除。これで全世帯の cash for work が終了した。FIWCのワークキャンプは毎年人が入れ替わってゆくので一つのワークを行うのには春の本キャンプでしっかり終わらせないと次のキャンプに支障をきたしてしまう場合がある。難しい面はあるが、ワークをする側として今回のように次のキャンプに影響がでないように本キャンプで責任をもってワークを終わらせなければいけないことを痛感した。



小学校の屋根の修理



川の掃除

## 10. 生活状況

### 衣

フィリピンの気候は雨季と乾季があるが一年中夏であり、日中は暑い。メンバーはみな T シャツに半ズボンや長ズボンにサンダルという格好で過ごしていた。だいたいの衣類は現地で購入可能。日焼け対策としてアームカバーやレギンス、サングラスを身につけている人もいた。帽子は必須である。また夜と早朝は少し冷え込むためパーカーなどを持っていくとよい。



### 食

フィリピン料理は鶏肉、豚肉、野菜、魚を醤油や塩などで味付けしたものが中心で、日本人の味覚に合うものが多い。主食は米でスプーンとフォークで食べる。パイナップルやマンゴー、バナナなどフルーツもおいしい。お祝い事がある日は豚やヤギの丸焼きを食べる。飲み物は水や炭酸飲料、コーヒーなどを飲んでた。生水はお腹を壊す危険性があるため、ミネラルウォーターを購入し飲んでた。日本から味噌汁やお茶漬けを持ってきているメンバーもいた。



### 住

survey 中は前回のワーク地であるカンソソ村のバランガイホールという公民館のような建物を借りて生活していた。ワーク地決定後はブノイのバランガイホールを借りた。床にごさを敷いて寝ていた。夜や外出する際は戸締りをしっかりするように心がけた。



## 風呂

日本のように湯船につかる風呂はなく、ポリバケツなどに水を溜めて手桶ですくって水浴びをする。これを現地では「リーゴ」という。共用の洗濯場など屋外ですることもあれば、広ければトイレでもすることもある。屋外でのリーゴは服を着たまま行う。夜に水を浴びると風邪をひくことがあるので、主に朝か昼に行う。シャンプーなどは現地で安く購入可能。



## 洗濯

洗濯機はないため洗濯は手洗いで行う。タライに水を溜め、粉末洗剤で汚れを落とす。雨が降っているときは部屋に、晴れた日は屋外にロープを張って干していた。KPの作成したシフト表に従い、全員分まとめて毎日洗った。ハンガーやタライ、洗剤はマーケットで購入可能。



## トイレ

便座がなく、便器だけのものが主流である。用をたした後はポリバケツに溜めた水を手桶ですくって流す。流れないときは焦ります。水を流す勢いが大切です。紙は流せないため、トイレに行くときにはトイレットペーパーとゴミ袋を持っていった。



## 買い物

どこの村にも「サリサリ」という小さな商店があり、お菓子や飲み物などちょっとした買い物ができる。ブノイから「ハバルハバル」というバイクタクシーで5分くらいのところにはマタグオブ市のマーケットがあり、食料品や衣類、生活用品が購入できる。また、マーケットから車で1時間くらいのところにレイテ島で2番目に大きな都市であるオルモックがあり、大きなスーパーや換金所があるため、マタグオブではできない買い物や円からペソに換金することができる。



## 交通

survey やマーケットへ買い物に行くときなどは主にハバルハバルというバイクタクシー1台に3～4人乗って移動したり、トライシクルというバイクの横に屋根付きのサイドカーがついたようなものに乗った。オルモックからマタグオブへの移動など比較的長い距離を移動する際はモルティカブという屋根付き軽トラックやバスを利用した。セブのSMから空港まではバンに乗り、セブ島とレイテ島間の移動はフェリーを利用した。バンやモルティカブなどは乗る前に値段交渉をしっかりと行う。



# 1 1 . 係報告

## <会計>

(仕事内容) 金銭の徴収・管理、換金、毎日の収支記録

(料金の目安)

- ・ シランガンホテル (ダブルベッド、エアコン付、6人1部屋) 1075P
- ・ 船 セブ→オルモック (スーパーキャット) 750P×6  
     オルモック→セブ (ウィーサム) 575P×6
- ・ バン シランガン→セブ港 1000P/台  
     SM→セブ空港 600P/台
- ・ モルティカブ 1日レンタル代 1000P
- ・ ハバル カンソソ→マーケット 10P/人  
     ブノイ→マーケット 5P/人
- ・ トライシクル ブノイ→マーケット 5P/人
- ・ モルティカブ セブ港→SM 200P
- ・ 空港税 550P/人



(レート) 1万円→4100P (9/2)

→4020P (9/11)

(支出)

	内訳	金額
宿泊費	シランガンホテル	1075P
食費	水	670P
	食費	6212P
ロード		2540P
交通費	船	7950P
	トライシクル	447P
	バス	920P
	ハバル	5859P
	モルティカブ	240P
	バン	1600P
	モルティカブレンタル代	3200P

	ガソリン代	4550P
生活費		1058P
感謝料	ロクロクさん感謝料	7000P
その他	Japaneseafestival 食材費	415P
	フェアウェルパーティ費	2800P
	病院代・薬代	10611P
合計		57147P

(収入)

繰越金	753.25P
生活費	36581.5P
予備費	20340P
合計	57674.75P

(全体の収支)

$$57674.75 - 57147 = 527.75P$$

(個人の旅費)

航空券代	61050 円
保険料	5000 円
生活費	15000 円
個人費	10000 円
キャンプ参加費	1000 円
合計	92050 円



(反省)

- ・収支計算が合わないときがあった。
- ・ハバル代をきちんと渡せていないときがあった。
- ・記録は毎日できた。





## <保健>

[仕事内容] 保健バッグの携帯・管理 メンバーへの声掛け

### [報告・反省]

メンバーの1人が食中毒による腹痛になり、病院に運ばれ、入院したが大事には至らず回復した。それ以外では他のメンバーに、靴擦れや擦り傷があった程度で目立った外傷や症状はなかった。絆創膏、ムヒ、虫よけスプレーの使用頻度が高かったが、それ以外のものはほとんど使われなかった。以下に記載してある中身一覧は下見キャンプには多すぎる気がした。バッグの中身が多すぎると、必要なものが探しにくく、使っていない薬でも箱がつぶれたり傷ついたりしてしまっていた。使い道がよくわからない薬もあるので整理する必要がある。



### [バッグの中身]

保健バック(大) 渡航前中身一覧		保健バック(小)渡航前中身一覧
サバイバルシート 6枚	テーピング 必要量	バンテリン(5g) 5つ
粉末ポカリ(1L用) 13袋	絆創膏(小) 多量	ザ・ガード(整腸剤) 多量
冷えピタ 15枚	絆創膏(扁平) 多量	ヘパリーゼ EX 20錠
ガーゼ L5枚	絆創膏(中・通常サイズ)多量	生菌整腸剤 14錠
包帯 1ロール	絆創膏(大) 多量	① COLVAN(かぜ薬)
ムヒ 3個	はさみ 1つ	② PARACETAMOL(解熱剤)
消毒液 4個	つめきり 2つ	③ 胃痛薬
アルクイック IPa 38錠	体温計 1つ	① ②③は以前(いつかは不明)フィリピンにてもらった薬
正露丸 2/3瓶	ピンセット 1つ	
便秘薬 47錠	整腸剤 160錠	
赤玉 5回分	虫除けスプレー 1個	

## <KP(kitchen police)>

### 【主な仕事】

1. 洗濯(ラバ)、皿洗いのシフト表作成
2. 生活用品の管理



### 1. シフト表の作成

出発前に、洗濯 3 人&皿洗い 2 人となるように平等にシフトを作成した。

### [反省点]

○体調不良や急な用事でできない人の分は率先して他のキャンパーがやってくれたのでよかった。



### 2. 生活用品の管理

《国内にて》

各自それぞれトイレットペーパーを 2 ロールもってくるように呼びかけた。

《現地にて》

購入した生活用品の管理を行った。毎晩夜にすべての生活用品があるか数を数えた。

～現地で購入したもの～

- ・たらい 2 つ
  - ・手桶 2 つ
  - ・食器用洗剤 1 つ
  - ・洗濯用洗剤 1 つ
  - ・ハンガー 1 2 本、下着を干すハンガー 1 つ
- \*その他、ごぎ 4 枚と水を入れるボトル 1 つは前回のものがあつた。



これらは洗剤以外、次回キャンプのためにダディーの家で保管してもらっている。

### [反省点]

○生活用品は紛失物が生じなかった。

×トイレットペーパーの消費が多かった。

→全員が持ってくるように徹底するべき、定期的に数を確認するべきだった。

## <イベント>

[仕事内容] 新キャンプ地でのイベントの企画  
備品の準備

[イベント内容] 折り紙・大縄跳び・歌・ダンス  
焼きそばをふるまう



### [報告・反省]

イベントには多くの村人が集まってくれた。焼きそばは村の人が協力してくれて一緒に作り、仲が深まった。味については本当はどうか分からないが、みんなおいしいと言ってくれた。全員に行きわたったので良かった。大縄は子供たちにとっても人気で、大人も楽しんでた。だんだんみんな上手くなってた。折り紙はみんな真剣に挑んでおり、キャンパーと試行錯誤しながらやることで、仲良くなった。歌とダンスも子供が多く参加してくれ、「WA になって踊ろう」と「線路はつづくよ(英語 ver.)」を歌って踊り、盛り上がった。



反省としては、焼きそばをつくる時に現地の人と一緒に作り、若干フィリピン風の焼きそばになった。折り紙は子供の数が多かったことと、メンバーの技術不足もあり、教えきれなかった。歌、ダンスでは現地の子どもたちにいきなり踊らせるのが難しかったため、事前に教えておいた方がよかった。大縄では縄が少なかったことと、遊び方にルールを設けていなかったため、遊びかたが単調だった。イベント中、熱中症で倒れた子供がおり、日差しの強い時間帯はさけるべきだった。



## 12. 他己紹介

### ☆あやか

我らがキャプテンあやか！しっかりもので心の広さは宇宙以上！彼女はこのキャンプでクロックスは最強！ということに気づきました。しかし犬に壊されました。いつも笑顔でみんなをまとめて、老若男女問わずいつでもどこでも誰でも仲良くなるあやかは本当にすごいのです。そして真剣な時とごゆいに甘える時のギャップに萌え萌えです。本当にありがとね！本キャンでもかわいいあやか様が見れることを乞うご期待！！ From みさき



### ☆ごゆい

ごっさむ！英語ペラペラで頼れるワークリーダー。本当にごっさむいなかったら、この下見キャンプは成り立ってなかったと思います。ワークのことを一生懸命考える姿、惚れてしまいそうでしたよ。でも人の顔じーっと鋭い目つきでにらむのは是非やめてください。まじで怖いです。それと寝起きの私にその長い手足を武器にして攻撃するのもやめてください。持前の明るさとチャレンジ精神で春の本キャンプも大活躍することでしょう！！

From りりこ

### ☆みさき

ブラックミーたんの異名を持つみさきさんはフィリピンキャンプ経験者ということもあり、様々な面でみんなを助け、的確な発言をしてくれました。かよわくて女の子らしい見た目とは裏腹に、たくさん食べたり、食事中に大きいほうの話をしたり、不意にメンバーに蹴りをいれたりしてくる一面もありました。あとテンション高い時に「ンフウっ♡」って言う。みんな大好きミーさん、春キャンプ来れたら来てね！ンフウっ♡!!

From のり





### ☆なつ

マタゴオブ市長お気に入りのなつ！フィリピン名はマリア！(笑)キャンプ中は1度死んじゃうんじゃないかと焦ったけど...元気になって良かったね！子供と遊んでるときと、トッコーを捕まえたときの笑顔はすごく輝いてました。とっても子供思いななつつん(^^\*)本キャンも一緒に頑張ろうね！頼りにしてます(ノ・ω・)ノ

From あやか

### ☆のり

今回の Only Boy のり。潔癖症&虫嫌いののりがフィリピンでやっていけるのか！？と皆が思っていたけど、のりは大きく成長しました。黙ってると顔怖いけど、喋りだすと面白い！！りりことのコンビは最強で皆を笑わせてくれたね！ロクロクさんに憧れて腋毛を全抜きしていた時は正直どうしようかと思った(笑)でも、保健係として常にメンバーに声掛けをしていた、気遣いのできる男！！本キャンでの活躍を本当に楽しみにしてるよ！！

From なつ



### ☆りりこ

誰よりも制服が似合うおちびちゃんりりこ。いじられまくりの皆のアイドルやね！りりこはノリが良くて、ボケを全部拾ってくれ、何を言われてもメゲナイという何とも接しやすい子です。キャンプではデブ活キャラ、ペチャパイキャラ、すべりキャラ、とあらゆるキャラを駆使して笑いを取ってくれました！ありがとう！会計の仕事はきっちりしっかりこなしてくれて、そういうところはさすが理系女子です。本キャンでも持ち前のキャラで皆に癒しを提供してくれることと思います^^。

From ごゆい



## 13. 感想

### [あやか]

理想のリーダー像。今までたくさんのリーダーを見てきたが、皆しっかりしていて、気が利いて、統率力があって...みんなの前で話すのが苦手な私は、今までリーダーという言葉とは程遠い人生を送ってきた。リーダーは強くなきゃいけない、しっかりしてなきゃいけない、それが私の思うリーダー。特に今回は多くが新キャンパー。美咲の参加が決まるまでは、キャンプ経験者は私一人。だから、キャンパーの前でだけは絶対に不安や弱気な面を見せないようにしようと思った。それまでももちろんたくさん悩んだが、リーダーになると決心したその日から、私の自分との戦いは始まった。キャンプ前の週1のMTG。どんなにどんなに準備しても前日は不安で寝れなかったし、上手くMTGをまとめられない自分が嫌で、終わってから毎回大泣きしていた。時には泣きすぎてヒステリックになり周りの人に迷惑をかけたこともあった。そんな中、たくさんの先輩方がMTGに来てくれたり、相談にのってくれたり、たくさんの支えのおかげで出発の日を迎えることができた。キャンプ中も、リーダーとして何もできてない自分と何度も何度も葛藤した。たくさんの村人やロクロクさん、そして何よりキャンパーみんなのフォローがなかったら、本当に無事にキャンプを終えることはできなかつたろう。本当にみんなのおかげ。みんながいたから、こんなに良いキャンプができた。しかしキャンプを終えた安心感と達成感の中、やはり考えるのは「自分に何ができたのだろうか？」ということだ。どんなに振り返っても、自分にリーダーらしいことができたとは全く思わない。でも、キャンプが終わってから、キャンパーにももらった言葉が私はすごく嬉しかった。「あやかがいたから自分らしく頑張れた、全力で楽しめた」帰国のときキャンパーにももらった手紙を家に帰ってから読んで、そんな言葉に自然と涙が溢れてきた。今までリーダーという立場について散々悩んで考えてきたけど、その答えが少しだけ見つかった気がした。先頭に立って引っ張るリーダーじゃなくて、みんなを見守り支えるリーダー。私が今まで見てきたようなかわいいいリーダーじゃないけど、私は私。そんなリーダーがいてもいいのかな？と。私にしかできない、私だからこそできる、もっともっとみんなの良さを引き出しみんなを生かせるリーダーになりたいと思った。もちろん今の自分に満足している訳ではない。自分にできることはまだまだたくさんある。今回のプロジェクトを少しでも良いものにするために、本キャンプのキャ



ンパー全員が思いっきり自分らしく活躍できるように、また1から考え頑張っていこうと思う。

そして、もう1つ。私は前回の報告書に「後悔の残るキャンプだった」と書いた。それは、自分自身が1歩引いてしまい、村人と心から打ち解けることができなかったからだ。そして今回のキャンプ。ようやく「楽しかった!!!」という言葉、自信を持って言うことができる。同じ後悔をしないためにも、キャンプ序盤は意識的に村人たちに声をかけていたが、だんだんと距離が縮まっていくのが分かり、村人たちとコミュニケーションをとるのが楽しくてしょうがなくなった。村人と仲良くなるってこんなに楽しいことなんだ、今までなんでもったいないことをしていたんだらうと改めて思った。なつが病院に入院しているとき、オルモックに日本人だけでは危ないからと、滞在していたカンソソの村人たちが交代で病院にいてくれた。時にはあったかいご飯を病院まで持ってきてくれたり、買い出しやレストランに連れて行ってくれたりと...村人たちのおかげで、異国の病院でも不安や不自由を感じることなく過ごすことができた。本当に本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。それと同時に、なんで私たちにここまでしてくれるのだろうかとも少し思っていた。すると、村人はこう答えてくれた。「私たちにとってあなたたちは大切な存在だから。もう1つの家族だから。」あ、家族になれたんだ。心の底からそう感じ、素直に嬉しかった。また、カンソソ滞在の最終日、ある青年が「カンソソに来てくれてありがとう。日本人のおかげで村が元気になったし、笑顔が増えた。」と言ってくれた。私たち FIWC は小さな学生団体であり、技術面でも資金面でも、他の大きな国際協力団体には勝てっこない。それでも、私たちがこの地で活動続ける意味。それはこの言葉の中にあるような気がした。小規模だからこそ、若い学生だからこそ、共同生活・共同労働により村に溶け込み、村に根付いたプロジェクトを行うことができる。インフラ整備だけじゃない、村そのものを村人たちの力で活性化させるきっかけづくり。それが私たちの強みなんだと思う。

今回のキャンプに関わって下さったみなさん、応援してくれたみなさん、本当にありがとうございました。そして、下見キャンパーのみんな^^こんなに個性豊かな人たち初めて出会いました(笑) キャンプ参加に手をあげてくれて、一緒にキャンプしてくれて本当にありがとう!そして、未来のキャンパーのみなさん!みんなに会えるのを楽しみにしています\(^o^)/ 私たちにしかできない、私たちのキャンプを、一緒に作っていこう!!!

## [ごゆい]

本キャンプのワークがブノイの water system の改善に決定した。4年ぶりの water system のプロジェクト。本当にこのプロジェクトでよかったのか。この選択は間違っていたのかもしれない。今でもまだそう思う。

Water system のワークは複雑で問題が起きやすい。特にこのブノイの water system の改善は本来ならば何百万ペソの予算を要するような規模が大きすぎるワークだった。私達が関与すべきワークではないのではないか、今このニーズに応える必要があるのか、私達の考えたワーク地決定の方針にそぐわないのではないかと。反対意見は山ほど出てきた。それでも私はブノイに Survey に行ったときからずっとブノイのワークがしたいと思っていた。ブノイの water system の問題は 20 年以上前から存在している。もともとは国が大規模な改善する予定だったが、財政困難によってその話は白紙となった。以来、村は何度も市や World vision などの大きな NGO 団体に助けを求めたが、幾度となく断られてきた。「どうせお前達も調査だけして、助けてはくれないだろう。」役員達はそう言っているかのような表情だった。台風の被害を機に、多くの NGO 団体が多く村で援助を行っていた。その中でブノイの問題は 20 年前から取り残されたままだった。どうしても助けたかった。自分達の予算の範囲内では完璧な解決はできないかもしれない。問題だつてきつとたくさん出てくるだろう。それでも、少しでも助けになるなら、私達の力で、村人達と協力してこの問題を解決したい。そう思ったのは結局村の為を考えてというよりもただの自己満足の方が大きかったと思う。絶対に失敗だけはできないと思った。自分達の自己満足で動いて、もし村に悪影響を与える事になったら、自分達では責任が取りきれない。もし、失敗する要因を抱えているのなら、予算が本当に足りないなら、このワークは諦めよう。キャンペンパー全員で話し合った結果、そう決断した。半日かけて Resurvey した結果、ブノイに決定したのは、私達の予算で十分にワークを成功させることができると判断したからだ。ワークを成功できる自信があったから、この決断を下した。

そしてブノイでのフェアウェルパーティーの前日、World vision がやって来た。World vision は昔からブノイの問題を把握していたが、幾度となく援助を見送っていた大きな NGO 団体だ。その World vision が今になってブノイのウォーターシステムを改善すると伝えに来た。「World vision は大きな団体で予算の規模も大きくそれだけプロジェクトの規模も大きいだろう。私達の団体よりも完璧なワークを完成させる可能性が高い。ワールドビジョンがワークを行ったほうが村にとっての利益は大きいだろう。だったら私達は違う村で新しいプロジェクトをするのがブノイにとって一番いい。」あやかと一緒にそうロクロクさんに伝えに行った。伝えきった瞬間、急に涙が溢れてきた。『悔しかった。』3 週間、たったの 3 週間かもしれないけど、私はワークリーダーとしてワークの事を一番に考えてきたつもり





だった。新キャンプ地を決めるのに何度も話し合っただけで、いろんなトラブルも乗り越えてきた。それが突然やってきた団体の一言で水の泡。「結局は金なんだな。これが学生団体の限界なのかな。結局はワークの規模が大きいほど村にとっての利益が大きいということなのだろう。」その時私はそう思った。だから、私は村が結局情で **World vision** ではなく、私達日本人のプロジェクトを選ぶと決めたとき、何度も考え直してほしいと村役員にお願いした。情ではなくて単純に利益だけを考えると、どっちか選んでほしい。それでも村はかたくなに、始めに約束をしたのは日本人だから、もう日本人と仲良くなって裏切りたくないから、とって考え直してくれなかった。結果、ブノイでのワークは **World vision** ではなく、私達 **FIWC** がすることになった。

2 月の本キャンプを控えた今。私はここで約束したい。必ず **Improvement of water system in Bonoy** を成功させる。私達の選択が、村の選択が正しかったのかは分からないが、村が私達を信用して選んでくれたからには、絶対ワークを成功させるし、成功させる自信がある。そして絶対、「**World vision** じゃなくて **FIWC** を選んで良かった」と村人が思えるような結果を残したい。ワークの規模は負けるかも知れないけど私達学生団体にしかできない事、私達日本人にしかできない事を精一杯考えて、実践していきたい。

初めてのキャンプ、フィリピンでの 3 週間、ここでは書ききれない本当にたくさんの嬉しいことや、楽しいことや、悲しいことや、大変なことがあった。フィリピン人の優しさに何度も感動させられ、フィリピンの事が大好きになった。たくさんの問題を乗り越えた 6 人だから、フィリピンが大好きだから、きっと春は最高のワークキャンプを作れると思う。

最後に、下見キャンプでお世話になったカンソソ、ブノイの村人達、準備やキャンプ中もたくさん助けてくださった **OB**、**OG** の方々、フィリピン滞在中私達の最高のエンジニアとして、私達のフィリピンのお父さんとしてずっと付き添ってくれたロクロクさん、キャンプ中ずっと支えてくれて本気で話し合ったキャンパーの皆、唯一の下見経験者としていっぱい助けてくれたみさき、準備の時からキャンプ最終日まで 1 番キャンプの事を考え皆を引っ張ってくれたリーダーあやか、本当にありがとうございました。

## **[みさき]**

初めてのキャンプの時、多分もう行かないだろうと思っていたのに、今日 4 回目のフィリピンキャンプを終えることになった。参加の理由はいくつかあるけれど、単純にマタグオブ市や **FI** のキャンプが大好きになったということが大きい。今回、参加を正式に決めたのはミーティングが始まってからであったし、私情でなかなかミーティングに参加出来ず、こんな中途半端な私でいいのかなと何度も思ったがリーダーのあやかが快く歓迎してくれ

た。そして始まった三週間の下見キャンプ。私にとって二回目の下見キャンプだが、去年とは全く異なり正直、つらいと思うことの方が多かった。というのも、今回は survey だけではなく前回のカンソソキャンプの問題やチェーンソーの問題を解決しなければならなかったからだ。私は今回の下見キャンプの一員であると同時に前回のカンソソキャンプも主催する側である。だから、前回のプロジェクトのことで今回のキャンパーが悩んでいるのを見ると申し訳ない気持ちでいっぱいになった。survey するのと同じくらいの労力で以前の FI の問題を解決していくのは本当に大変だと痛感したのと同時にワーク一つ一つを責任を持ってやらなければならないと強く感じた。

また、キャンプ四回目にして今回新たに分かったこと、感じたことも沢山あった。一つとても思い出のあるエピソードがある。それはブノイ村でフェアエルの前日に起きた World Vision との問題である。私たちが決定したブノイ村で world vision が私たちのワークよりも規模の大きいワークをすることを決定した。村も私たちもどうしてよいか分からず、キャンパー全員でどうすべきか話し合った結果、村のこれから先の利益のことを考え、残り一日だったが別の村へ移ることを考えた。それを村役員に伝えたら、彼らは FI のことを選んでくれた。私たちは何度も情は抜きで利益のことを考えて決めてほしいと言ったが、彼らは「FI とやると決めたから」と言って、一步も譲らなかった。日本人の感覚ならば規模も大きく確実に成功する方を選ぶだろう。けれど彼らにとって大切なのは、利益よりも関係性なのかなと思った。それが理由で、たとえインフラが遅れても、もっと大切なもの優先すべきものが当たり前にあるんだなと思った。根本的に文化の違いなのだろうけれど、私は彼らを心から尊敬する。あの日のことはきっとキャンパー全員忘れられない出来事になったと思う。

今回、大変なことも多かったがやっぱりキャンプは楽しかった。survey 中、前回のワーク地のカンソソ村に泊まった。村人たちは以前と変わらず、明るく「みさきー！」と声をかけてくれた。三月に作った橋を雨の日に村人やハバルが使っているのを見てすごく嬉しかった。夕方フットブリッジの上で子供たちがおしゃべりしているのを見ると新たに集う場所ができたんだなと思い感動した。ある高校生のオカマちゃんが「さっきフットブリッジの上でおしゃべりしてきた！なぜなら橋が美しいから！」と言ってくれてお世辞かもしれないけれどとても嬉しかった(笑)！ たくさんの村人たちが「ありがとう」と笑顔で言うてくれて本当に前回カンソソ村で橋を作ってよかったと思う。カンソソ村を立つ前日、寂しくて泣いてしまった。今回のキャンプでは



できるだけ感情を抑えていようと思っていたのだが、その時だけは涙がとまらなくて、声を出して泣いてしまった。それだけカンソソ村を好きになれたことが自分にとって嬉しいし、この関係がこれから先もずっと続いてほしいと思う。

最後にキャンプを支えてくれた全ての方に感謝します。ありがとうございました。そして私たちを笑顔で迎え入れてくれたカンソソ村！数日間の滞在だったのものすごく仲良くなったブノイ村！沢山苦勞をかけちゃったロクロクさん！本当にありがとうございました。そして、あやか、ごゆい、なつつん、りりちゃん、のりくん！みんな感謝してるよ。きっと今回の下見キャンプはFIの歴史の中でも本当に大変なキャンプだったと思う。そんな中、リーダーはすごく大変だったと思うし、新キャンパー4人も本当に本当によく頑張りました。つらいこともかなり沢山あったけれど最高の仲間と一緒に笑って、泣いて、悩んで、踊ってとっても楽しかったよ。本キャン期待してま〜す。そして私も必ずまた大好きなサンドニシオ、カンソソ、ブノイに戻ってきます。

## [なつ]

私がキャンプに参加しようと思った理由は「子供が好きだから」、これだけだった。FIWCという団体に最初に出会った時に見せてもらった、フィリキャンの紹介スライドの中の子供たちの楽しそうな笑顔を見て、「私がこの笑顔をつくりたい！」と思ったのがそもそもFIWCに入った動機だった。キャンプの準備をする段階に入って、一緒に行くメンバーや先輩達と話をする機会が増えて、周りがどれだけフィリキャンに対して高い意識を持ち、自分自身の考えを持っているかということに気づいた。対して私は、完全に自分のため、具体的にやりたいことは思いつかない、さらにバイトに入りすぎてMTGに参加できないこともあった。我ながら薄っぺらい人間だなと思ってはいたが、特に何を変えることもできないまま、楽しみだなくらいの気持ちで日本を出発した。

フィリピンに到着し、前回のワーク地のカンソソでの生活がスタートし、トイレやお風呂や洗濯の日本との違いに最初は戸惑いを感じた。しかし、村の子供たちは可愛いし、大人たちも親切にしてくれて、様々な村を周って疲れながらも、楽しいなと思いながらsurveyをしていた。そんな中、下見キャンプも丁度折り返しの日の真夜中、私は激しい腹痛と嘔吐と手足の痺れに襲われ、救急車で病院に運ばれた。お腹にアメーバがいるという診断が下り、2日間の入院を余儀なくされた。その入院期間中ずっと、都会の病院は日本人だけでは危ないということで、カンソソのお母さん達が交代で2人ずつ病室についてくれた。村から病院は遠いし自分たちの家の家事だってあるのに、嫌そうな顔もせず当たり前のことようについていてくれて私を心配してくれた。カンソソで実際にワークをしたのは前回の春のキャンパーであって、私自身はカンソソのために何もしていないにもかかわらず。私

がフィリピンまで来て大人達に対しては持ち前の人見知りを発揮していたため、それ以前にはほとんど話したことがなかったにもかかわらず。キャンプの出発前にぬけさんや先輩たちがフィリピンの人たちは本当に優しいし親切だと教えてくださったことを身をもって実感した。退院して村に帰りついた時も大勢の人たちが出迎えてくれて、心配してくれていたことを知った。涙が出た。この優しい人たちにどうにかして恩返しをしたいと強く思った。しかし、次の本キャンではカンソソでワークをすることはできない。だからこれは自己満足であるとわかっているが、春の本キャンのワーク地が決定したらその村で自分ができることを最大限努力して全てやって、必ずワークを大成功させてフィリピンの人たちに恩返しをする、皆を自分の手で笑顔にする。そう決心した。この瞬間やっと私にも相変わらず自己満足なものだけど、フィリキャンに参加する目的ができた気がする。

退院直後、メンバーは皆他の村に survey に行つて、私だけ安静のために留守番をしていた時、私の不注意で体調を崩し、全員の予定を変更させてしまって足手まといになっていることが申し訳なくて、一人で日本に帰った方がいいんじゃないかと思った。でも、お見舞いに来てくれる村の人たちと一緒にいると、この人たちに恩返しすると決めたんじゃないかと改めて思いなおすことができた。こんなことを言うと迷惑をかけてしまった人たちに



に悪いけど、入院したことで自分のキャンプの目的が入院前より明確に、またより大きくなったし、今まで話さなかった村人と話す機会も増えたとし、下見キャンプが終わった今では入院してよかったと思っている。もちろん二度と入院なんかしたくないししないけど(笑)

色々あったが、春のワーク地はブノイに決定した。ブノイは survey に行った時から、私が絶対この村でワークをしたいと思い続けていた村だ。その内容はウォーターシステムの改善という、場合によっては問題も多く生じ得る難しいワークだと思う。ワーク地が決まった後にも、結果的には解決したが World Vision との問題もあった。キャンプ前の私ならこの状況を不安に感じ、弱気になっただろうと思う。しかし、はっきりとした目的ができた後は、逆に完璧にワークを成功させてやろうと思っている。キャンプ中には何度も自分の勉強不足を痛感した。英語もそうだが、やりたいことがあるのに知識が足りなくてどうすればいいのかさえ分からないことが多かった。もっと英語も勉強して、少しでも知識をつけてちゃんと準備をして春の本キャンに臨もうと思う。

最後に、本当に色々あった今回の下見キャンプを無事終えることができたのは、あやか、ごゆい、みさき、りりこ、のり、この5人が一緒だったからだ。始めは人見知り全開だっ

たわ、慣れてきたと思ったら入院するわで間違いなく一番迷惑と心配をかけてしまったこと、ごめんなさい(笑)。ありがとう。本キャン皆で必ず成功させよう。

## 【のり】

自分は一年生で、初めて FIWC のフィリピンキャンプに参加した。今回のキャンプを終えての素直な感想は、「無事に終わられて良かった。」だ。

自分はやはりミーティングだけではぼんやりした考えしか持っていなかったし、人間的にダメなところが多々ある上に、日本では人の家の料理が食べられなかったり、あまり子供が好きではなかったりしたため、フィリピンに行くにあたり、不安なことがたくさんあった。メンバー6人中、5人が女性で男が自分1人ということもあったが、それはたいして気にならなかった。女性に見えないというわけではなく、おそらくみんな性格が男勝りだったからである。本当に良かった。

フィリピンについては、ロクロクさん宅でチェーンソーの話聞かされ、はじめは軽く考えていたが、話を聞いていくうちにどんどん複雑になっていき、よくわからずほとんど他のメンバーに任せていた。

カンソソについてから、子どもたちと遊ぶのは思ったより楽しかったし、自分がそんなに子供嫌いじゃないことや、人の家のご飯でも環境によっては平気で食べることができること知り、いくつかの不安が解消され、うれしかったが、本来やるべきことである survey が始まってからは憂鬱なことが多かった。最初の方のいくつかの村を訪ねたときはやる気満々で行ったが、話を聞く気があっても英語をほとんど理解できず、メンバーに要約してもらって内容を教えてもらっても、浮かんでくる自分の考えは他のメンバーの考えよりも劣っているというか的はずれな気がして、発言しづらいということにはなかったが、正直ミーティングが若干トラウマ気味だった。また、そのミーティングでは survey の話と並行してチェーンソーの話し合いもあり、ほぼ話についていけず、ダブルパンチで憂鬱で、自分のメンバー内での必要性とか、自分がついていけないだけなのに、これは本当にやりたい内容なのかと考えたりもし、春のワークキャンプに行くかどうかにも真剣に迷っていた。

自分が春のキャンプに行くことに決めたのは新キャンプ地のブノイでの滞在中の後半である。他のメンバーの感想にもあるとおり、world vision がやってくれると言っているのにも関わらず、たった数日間の交流しかなく、ワークの規模も小さい自分たち



を選んでくれたことがとてもうれしかったし、中途半端な考えをもっていたことが他のメンバーや村の人たちにとっても申し訳なくなり、やるしかないという気になり、春も参加することを決心した。

下見キャンプが終わり、無事に終えられた今となってはチェーンソーの話が嫌だったことも気にしていないし、アルジーを泣かしてへこんだこともカイエに靴をゴミ箱に入れられたこともパトリックに二発良いパンチをもらったことも気にしていない。村の人たちが自分たちがまた来るのを待っていてくれると思うと、また行きたいという気持ちでいっぱいである。

メンバーにも支えてくれた人にも村人にも恵まれたとても良いキャンプだった。春のキャンプはさらに自分に気合をいれ、やる気のあるメンバーを多く集めて絶対に成功させたい。

## 【りりこ】

私はボランティアという言葉にどちらかというとマイナスイメージを持っていた。人に同情して分かった気になって、結局自己満足になってしまうだけと思っていた。そんな私がなぜこのキャンプに参加を決めたのかというと、テレビでしか見たことのない貧しいと言われている地域を自分の目で見て感じてみたい。ずっとそう思っていたからだ。正直ミーティングが始まってからも下見キャンプのイメージが全く掴めずふわふわとした状態で日本を出発してしまった。

Survey は自分にとって本当に難しいものだった。まず英語が聞き取れない。あやかが survey の終わりに毎回メンバーに質問はないか聞いてくれたが、ほとんど質問できなかった。情報を整理するのでいっぱいだった。何をしにきたのか？と自分の無力さを痛感し、本当につらかった。しかしキャンプに参加したからには逃げずに向き合いたいと思い、ミーティングで分からない点はメンバーに質問し、一生懸命考えて意見を出した。最後まで候補に残ったのはマラオとブノイだった。私は最初マラオでワークがしたいと思っていた。雨の日に resurvey に行った際、実際にマラオの子供たちが学校に行けていない姿を見たからだ。ブノイでのワークは私たちには大きすぎるのではないか。ウォーターシステムをつくるのには問題がたくさん生じるのではないか。そんな不安があったのも事実である。しかし話し合っているうちに、やはり水という生活をする上で最も重要なものが乏しいという状況を変えたい！と思った。トラブルが生じるのを恐れていては何も変えられない。村人が当たり前となっている不便な状況は改善できるんだと証明したいと思った。

ブノイに移り、ソロイソロイ（お散歩）しながら現在の公共の水道の状況を調べ、直接村人の声を聞いた。毎日何回も水を汲みに行くのは大変だとたくさんの人から聞くと、自

分たちがやろうとしていることは役に立つかもしれないと感じ、やる気が上がった。ワークの詳細が決まっていき、村人とも仲良くなって日本へ帰りたくないなあと思いながら子供たちと遊んでいた、日本へ旅立つ2日前。赤く目を腫らしたあやかとごゆいから **world vision** がブノイのウォーターシステムのワークを行うと言っていることを聞いた。頭が真っ白になった。どう考えても村のためになるのは大きな団体である **world vision** が完全なウォーターシステムをつくることである。分かってはいても私たちがこの村を離れることは考えたくなかった。私たちにしかできないこと、**world vision** に負けないことを考えた。しかし自分たちのせいでむしろ村人が不便な生活を強いられるかもしれない。自分たちの一生懸命やった活動が自己満足で終わるなんて絶対に嫌だという思いが私の中で強くなった。集まったカガワット（村の役員）にどちらを選ぶか話し合うよう頼んだ。彼らは迷わず私たちを選んでくれた。嬉しかった。しかしやっぱり納得いかなくて、本当にこれでいいのだろうかともヤモヤしていた。そんなとき村人の歌声と笑い声が聞こえてきた。「私たちは君たちを愛しているのだから。心配しないで。泣かないで笑って!」村人はみんなそう言ってくれた。私は自分の考えていたことがだんだんバカらしく思えてきた。「この人々にとって大事なこと」は私の勝手に考えていた「この人々にとって大事なこと」と違うんだ。便利な生活だけが幸せではないのだということに改めて感じた。そしてそういう考えを持つフィリピン人をすごいなと思ったし、私はこの人たちのためにできることをやりたいと心の底から思った。

初めてのキャンプはつらいこともあったが、それ以上に楽しくてフィリピン人から多くのことを学んだ気がする。いつも笑顔で人と人とのつながりを大切にするフィリピン人が大好きだ。そして急にやってきた見知らぬ日本人を受け入れてくれて、愛情をたくさん与えてくれて村人たちには感謝の気持ちでいっぱいである。



人の役に立つためには自分が人を助けられるほどの人間にならなければいけないと思った。自分はまだまだ勉強不足だと身に染みて感じたし、実際フィリピンに行ってみて疑問も増えた。春に向けて、少しでも村人の役に立てるように勉強していきたい。春にまたブノイに戻ってこれるんだということが嬉しくて、もうすでに楽しみである。あやか、ごゆい、みーたん、なつつん、のり、下見キャンプお疲れ様でした！こんな役立たずであほな私と3週間も一緒に過ごしてくれてありがとう。みんなとだったから楽しく過ごせたんだと思います。春も残飯処理頑張るから、一緒にいいキャンプにしようね！



## フィリピン下見キャンプメンバー

江原文香 (九州大学3年) : リーダー

呉唯意 (九州大学2年) : ワークリーダー

陣内美咲 (西南学院大学3年) : KP/イベント

高原奈津美 (九州大学2年) : 記録

林田梨里子 (九州大学1年) : 会計

小林典史 (西南学院大学1年) : 保健/イベント